

# Dream times Possibility

「ユメ」かける「可能性」

D×Pの考えるユメは、

「ひとり旅をしてみたい」「推しのライブに行きたい」

「好きな人と子どもと4人家族で暮らしたい」

「車の整備士になりたい」「ラーメン食べたい」

ちょっとでもやってみたいことも含めて自由に描くもの。

ユメは、未来に対する期待だと考えています。

人には、たくさんの可能性があります。

しかし、環境や周囲の人との関係性のなかで可能性が閉ざされることもあります。

ひとりひとりがユメを描ける状態にあること、

そして、本人の持つ可能性を發揮できる環境があること

この2つを掛け合わせることが

若者が希望を持てる社会の実現に重要な要素だと考えています。

ひとりひとりの可能性が広がるように

10代と社会を掛け合わせていくことがD×Pの役割です。



## ロゴに込めた思い

「可能性も困りごと両方を見つめ、ひとりひとりの10代に関わっていく」という決意を込めて。明暗のグラデーションを持ち、ともに未来へと進んでゆくイメージを伝えるために夜明け空から2色を配しました。

「d」と「p」の斜めのまっすぐなラインは、「常に時代の変化に即して革新的な取り組みを行ない、社会的インパクトを出す」ことを、線の中央は10代と社会をつなぐ「結び目」を表現しています。このロゴマークは、2016年に制定されたロゴを元に、D×Pの活動領域の変化・ブランドイメージの変化に合わせて2021年にアップデートしました。

# D×P ANNUAL REPORT

2020-21



活動報告書 2020-21

10代をひとりしなない ディービー  
認定NPO法人 D×P

540-0032  
大阪市中央区天満橋京町1-27 ファラン天満橋33号室

✉ info@dreampossibility.com  
🌐 www.dreampossibility.com  
🐦 @npo\_DxP  
📘 www.facebook.com/npodxp

理事	今井紀明/塩田陵/村中直人/川上竜典(2021年5月退任)/入谷佐知
監事	毛受芳高
スタッフ	小園明日香/玉井慎太郎/佐々木貴史/野津岳史/岡崎拓也/ 宮崎あゆみ/大宅穂香/磯みずほ/熊井香織/中川沙登美/ 原口西/岡田正光/釜場彩葵/井階正純/鈴木有紀/中園優輝/ 若井彩美/山元誠司/鮫島美月 以下、2020年度内に卒業したスタッフ —— 春日芽亜/信夫朋香
取引銀行	ゆうちょ銀行 〇九九店 当座 0332445 楽天銀行 第二営業支店 普通 7079724
顧問弁護士	高橋健
写真	西川優介
デザイン	雪崩式

月額寄付  
サポーター  
募集中!

月1,000円からの月額寄付で  
D×Pの活動に参加できます。

D×Pへ寄付していただくと、  
最大約**40%**のお金が戻ってきます!

月1,000円のご寄付を1年間すると、  
最大約**5,000円**の控除

D×Pは、大阪市から認定を受けた「認定NPO法人」です。  
認定NPO法人へのご寄附は、税控除の対象となります。  
地方税も寄附金控除の対象となりますが、控除割合は各自治体によって異なります。  
詳細については、各自治体にお問い合わせください。

D×Pと、ひとりひとりの10代をご支援くださっている皆様へ  
感謝を込めて。



# 10代から見た 2020年



「10代から見た2020年」を考えたことはありますか？  
もし自分が2020年に10代後半を迎えていたら、どんなことを思ったでしょうか。

D×Pは「10代の孤立」を防ぐNPOです。  
そして2020年は、コロナ禍により、10代に限らずさまざまな方のつながる機会が失われた年でもありました。

コロナ禍であっても、卒業や進路選択の時期はやってきます。  
アルバイトが休業になっても、働かなければ生きていけないという環境にある10代もいます。  
しかし、未成年のため大人よりも自分でとれる選択肢が少なく、お金も人脈も少ないことが多いです。  
大人と子どものはざまにいる彼らにとって、この1年はどんなふうに取り扱われたのでしょうか。2人の10代に話を聞いてみました。

## 「お金のこともあるけど、1番は行く場所ないことかな。」

ユキサキチャットを通じて1年以上やりとりを続けているひびきさんは、現在19歳。保護者には頼れないため、ひとり暮らしの生活費はアルバイトを掛け持ちしてやりくりしています。高校生もできるアルバイトは飲食店が多く、働いていたひびきさんも影響を受けました。

時給の高い時間で働こうとしていたアルバイトが時短になり、深夜手当がつかなくなりました。1度目の緊急事態宣言では全く働けず、夏頃にはシフトに入れるようになりましたが、冬にはまた働く時間が短くなったと言います。

**D×Pスタッフ:**働く時間が短くなるのは不安が大きいね。大変だなんて感じることはどんなこと？

**ひびき:**うーん……。お金のこともあるけど、1番は行く場所がないことかな。前は、友達とご飯食べに行ったりとかしてたけど、友達がおじいちゃんと一緒に暮らしていてあまり出れなかったり。前は高校生向けの居場所に行ってたんだけど、コロナで閉館になってたり。

休みの日はYouTubeで音楽を聴いたりして過ごすことが多いそう。家の中にいることが多く、シェアハウスに住む他の住人

と一緒にボードゲームをすることもあったと話していました。

**D×Pスタッフ:**友達にも会いづらいんだね。いま、やりたいことってある？

**ひびき:**バンドやりたい！高1のときに3ヶ月ぐらいだけバンド組んで、コピーしてて。今もたまに弾いてる。でも、楽器やりたい友達がいらないんだよ〜。

**D×Pスタッフ:**ネットで探してみたりとかはしないの？最近、zoom使って遠隔バンドとかもあるよね。

**ひびき:**え〜、生で一緒に弾くのが楽しいじゃん！

**D×Pスタッフ:**それなら、スタジオ入ったりもしたいよね。コロナ早くおさまるといいねえ。

**ひびき:**そう。好きなバンドもね、ライブやってないし。あ〜〜、長そう。まだまだじゃない？

## (シフトが)減るのは仕方ないかなって思って我慢してた。

定時制高校で実施している居場所事業で出会った、さらさん。居場所には「行けへん日が多かったっていったら嘘になるけど、結構常連やったな」というぐらい顔を出す日が多かったそうです。2020年3月に高校を卒業し、今はホテルで働いています。

**さら:**アパレルかホテルのフロントで働きたくて、就職活動して。その時期はコロナがやばかったからフロントの募集はなくて。それで、卒業してから近所のアパレルに決まったねん。でも、働き出してすぐに緊急事態宣言。服を綺麗に畳み直す作業をずっとやってたかな。作業はめっちゃ好きやった、時間経つの早いし。けど、人間関係がゴミすぎて2ヶ月ぐらいで辞めて。そのあと、友達から教えてもらったホテルの清掃の仕事をしていたら、支配人がフロントで働いたら？と声をかけてくれて。劇的やで。

**D×Pスタッフ(宮崎):**劇的やな〜！ホテルのフロントに憧れたきっかけとかあったん？

**さら:**え、それがな…わからへんねん(笑)なんでわからへんねんけど、働きたかったんやろうな。アパレルが1番したかったけど、残念やったな。

2021年の2月頃。シフトが急激に減ったと言います。D×PのLINE相談「ユキサキチャット」にも、2回目の緊急事態宣言時は解除されたあと「アルバイトのシフトが減ってしまった」と相談が届いていました。

**D×Pスタッフ(宮崎):**シフトが減ったときはどうしてたん？

**さら:**え〜もう、減るのは仕方ないかなって思って我慢してた。仕方ないと思うしかなかった。友達も暇して働いてない子が多くて、みんな家で自粛する方法を考えて。部屋掃除したりお菓子づくりしたりしてる子が多かったかも。

**D×Pスタッフ(磯):**さらは、休みの日は何して過ごしているの？

**さら:**何してるやろ。最近、2連休で彼氏と休みが被った日はキャンプに行ったりした！キャンプやったらさ、ひとつひとつに分かれてるから密にはならへんやんか。普通の休みの日は、お昼まで寝て、ご飯買いに行ったらまた寝てYouTubeとか。キャンプはめっちゃ面白かったで。



さらが描いた居場所のチラシ。  
絵を描くことが好きな生徒に描いてもらっています。



コロナ禍での緊急事態宣言等でシフトが減り、もともとの経済的土台がないことによって大打撃を受けた若者もいれば、ひどい影響はなかり過ぎた若者もいます。最初の半年はなんとかやりくりできたけれど、途中から耐えきれなくなった人もいます。

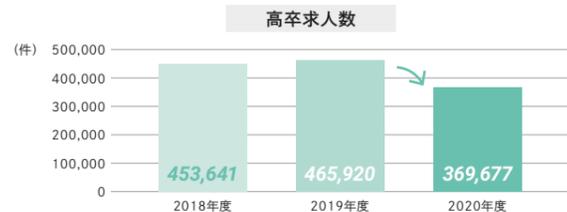
人と会う機会が減ってホッとした人もいれば、そうでない人もいます。状況はそれぞれですが、コロナ禍をきっかけに、なんらかの機会やつながりが失われていきました。

「10代から見たコロナ禍」をもう少し紐解くために。次のページからは、2020年に10代が受けた影響がうかがえるデータや、アンケートで受け取った皆さんの声をご紹介します。

# コロナ禍の10代を取り巻く課題

2020年に10代が受けた影響がうかがえるデータやユキサキチャットでのアンケートで受け取った皆さんの声をご紹介します。ひとりひとりの10代の背景・環境を想像しながら読んでみてください。

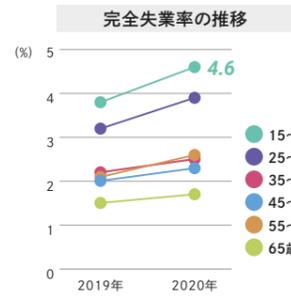
## 高卒求人数の減少



出典:厚生労働省『高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・就職内定状況』

上昇傾向にあった求人数が、落ち込みました。特に影響を受けた飲食・接客・サービス業界などの求人が減り、これらの業界を希望していた生徒の選択肢が狭まっています。

## 完全失業率の上昇



完全失業率は、労働力人口(就業者と完全失業者の合計)に占める完全失業者の割合です。2020年はどの世代も増加傾向となりましたが、若い世代ほど失業状態になる人が増えています。

\*完全失業者とは、働く意思が必ずに働ける状況でありながら、仕事に就いていない人のこと。

出典:総務省統計局『労働力調査』

## 20歳未満の自殺者数の増加



出典:厚生労働省『自殺の統計』

2020年に自殺した小中高生は統計のある1980年以降最多の479人(前年比140人増)となりました。なかでも、女子高校生の自殺者は138人と前年度の2倍近く増えています。

### 10代の声

行政の支援までが遠くハードルも高い。ユキサキさんがいなければ多分もっと早く自死していたと思う

このまま虐待が続くようであれば自傷行為はもちろん自殺未遂までおかすのではと不安になります

荒んだ生活環境で余裕もなく、精神的に落ち込んで自殺を何度も考えました。今はバイトをして元気に出勤できていますが、緊急事態宣言が発令され収入がゼロになってしまうのではないかと不安です

## 児童虐待の相談対応件数の増加



出典:厚生労働省『児童虐待相談対応件数の動向について(令和2年1月~令和2年12月分(速報値))』

警察庁が発表した児童虐待の通告児童数は、106,960名。うち、心理的虐待が78,355名で、子どもの前で家族に暴力を振るう「面前DV(ドメスティックバイオレンス)」も含まれています。

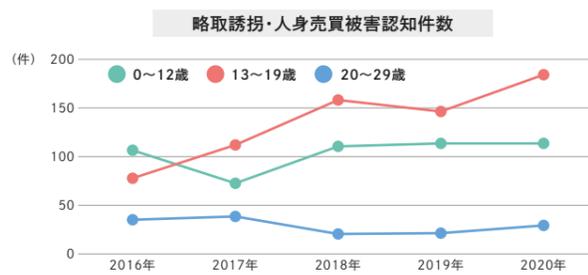
### 10代の声

コロナ禍で家にいることが多く、兄弟に毎日暴言を吐かれたりしてそれに耐えています

親が職を失いやたらと自分に当たってくるから腹立たしい

コロナになってから父がずっと家にいて母の機嫌が悪くなる事が多く、二ヶ月ほど前から母は家事に消極的で、あまりご飯を作ってくれなくなりました

## 誘拐・人身売買被害認知件数の増加



出典:警察庁『犯罪統計資料』

警視庁は、人身取引の注意喚起として「SNSで求人に応募。待ち合わせ場所から連れて行かれて性的サービス店で労働を強要される」という例を挙げています。略取誘拐につながりそうなヒヤリとする10代の声を聞くこともありました。

### 10代の声

家出も考えて、SNSで住む場所も仕事も提供してあげるよっていう人とつながりました。他にいける場所がなかったらそこに行こうと思って

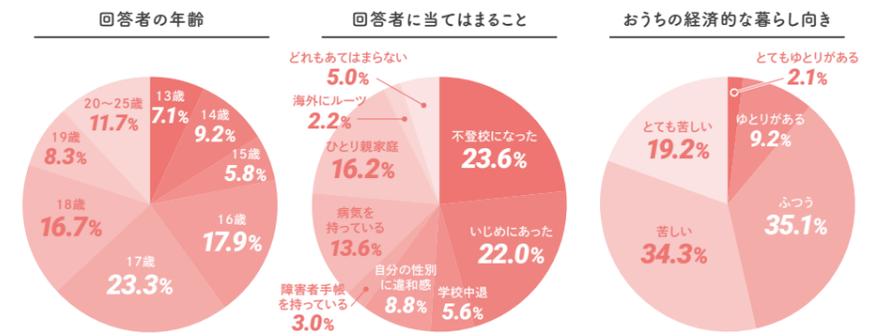
前にSNSで知り合った人と遊びにいったんです。家まで送ってあげるって言われたけど、実際は全く違うところに連れて行かれて、お金も盗られちゃったことがあって

SNSでつながった友達に「アルバイト探してる」って言ったら、パーを紹介されて。働いているうちに、男性専用のマッサージ店で働いてみないか?って言われたんだけど...

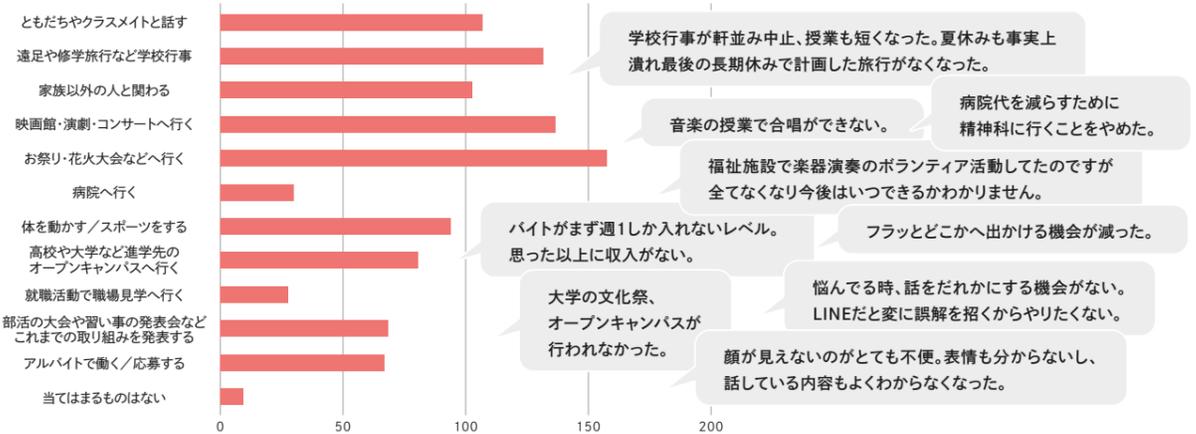
# コロナ禍どうだった? 10代緊急アンケート

2021年3月、13歳~25歳を対象にアンケートを実施しました。

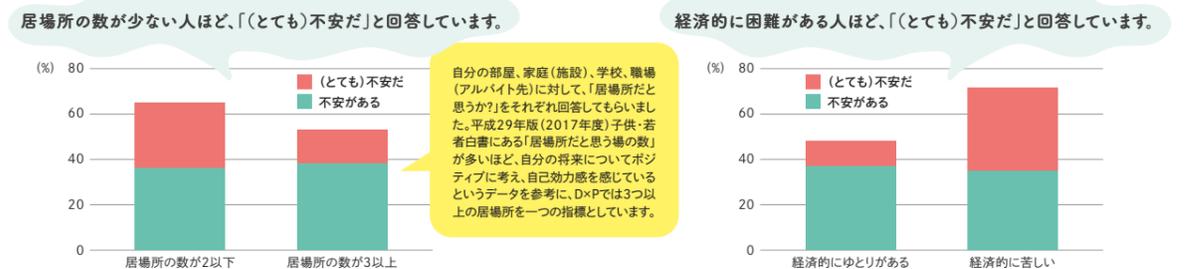
回答者はユキサキチャット登録者とD×Pとつながりのある卒業生、連携先である学生向けインターンシップを行なうNPO法人G-netに訪れる10代です。240件の回答が集まりました。



## コロナを通じてどんな機会が減ったと思いますか?また、ガマンしたと思うことはありますか?(複数回答)



## コロナの状況がつきそうですが、あなたはこれから先もやっていけると感じますか?



### 「まあ大丈夫だと思っている」「大丈夫だと思っている」と答えた人の声

- ・なるようにしかならないし、不安になればなるほど己の心が危ないので。勿論青春も大事だけどコロナで死んだら元も子もないのでちゃんと色々な事に気を付けている、つもりです。毎日推し眺めながらある程度心も安定してまだ大丈夫です。
- ・子どもの頃から関わりがある地域の人、小中高の友人や先輩・後輩、家族や親戚がいる。自分は一人ではない。そう思えるから大丈夫だと思ってる。
- ・コロナ禍で自分一人の時間が増え、心に余裕を持って生活できるようになったから大丈夫だと思う。
- ・コロナによってたらされた恩恵の方が自分にとっては大きかった。
- ・もともと集団で集まって何かを行うことが苦手なのでひとりでの行動が中心にならざるを得ない今の状況が楽です。ただ、他人と関わる機会が全くないと不安に感じることがあります。
- ・運良く収入にあまり変化がないし、今までも十分辛かったんで、少なくとも悪化することはないだろうと思えたから。
- ・通信制高校に在学しており、家にいる機会が多いので、自粛のムードにありがたさを感じています(周囲の人たちも家にいるので、罪悪感を感じなくなった)今後もテレワークの文化が残る、田舎でも主流になってくれるといいなと思っています。

### 「(とても)不安だ」「不安がある」と答えた人の声

- ・圧倒的デメリットが多すぎる。
- ・仕事もない行政にも頼りづらい、内定も取り消された、家族などの後ろ盾もない学校も中退したから居場所がどこにもない。体調が悪くても病院にかかるお金もないから弱っていくばかり。将来への希望が0。
- ・家族に頼れないので人との交流をしたいが、対面で話したりすることが良しとされていないこともあり交流できる人が全く居ない。
- ・母親からの愚痴やちょっとした暴言(クズとかクソガキなど)に耐えられるか不安。
- ・ニート状態現状に違和感を抱かない自分に対して少し不安。
- ・コロナによって露見した世界の暗い部分が、自分の信用を一気に覆されたみたいで怖くなります。日本の政治は大丈夫でしょうか?でもわたしには選挙権もないし、SNSなんかで発信しても、今まで何人もの人がやっつてくることで変わらなかったものを変えることはできないと思います。政府がきちんとコロナに対応できているとは現状思えないので、とても不安です。
- ・学校辞めたいと思っても辞めたら全て借金になるからその手を取るのも厳しい。
- ・生きる意味がわからない。



# ひとりひとりの若者が 自分の未来に希望を持てる 社会をつくる

どんな境遇にあったとしても、  
つながりを得られる状態をつくれます。

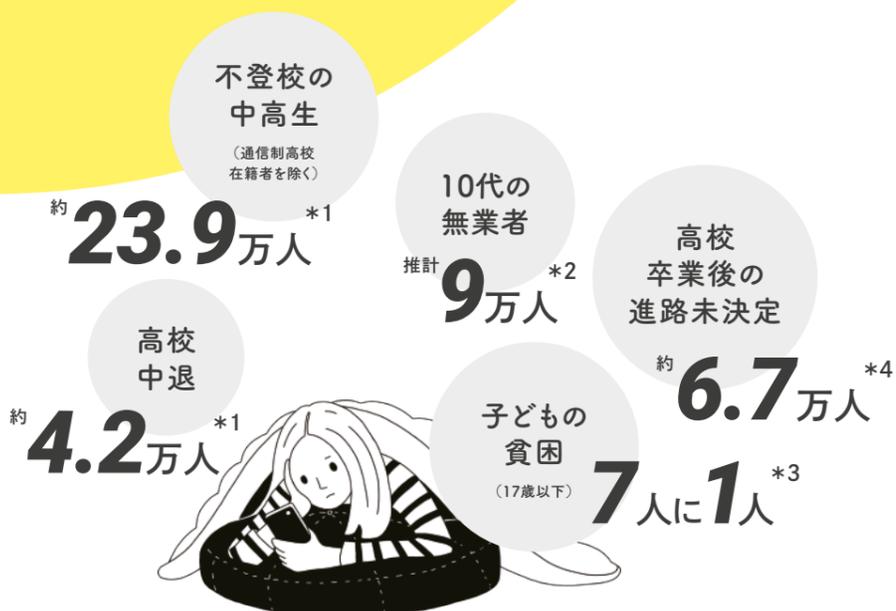
大人と子どものはざまにいる10代は、  
いまあるセーフティネットから  
抜け落ちやすい存在。



D×Pが取り組む社会課題は、  
10代の孤立です

不登校・中退・家庭内不和・経済困窮・いじめ・虐待・進路未定・無業などによって、いくつかの安心できる場や所属先を失ったときに起こります。

それぞれの10代の境遇はさまざまです。経済的に困窮している人、家庭や学校が安心できる場ではない人、発達障害/学習障害を持っている人など、多様な事情が重なっています。また、いじめや虐待などの経験から人とつながることに心理的ハードルを感じている10代もいます。これらの要因が重なると、さらに孤立が深まります。



10代は、未成年であることで本人が自力でとれる選択肢は狭まります。頼れる人とのつながりをなくし孤立すると、社会にあるさまざまなセーフティネットへ辿り着くことも難しくなります。また、危険な大人とつながり事件に巻き込まれてしまうなど、深刻な状況に陥ってしまうこともあります。身動きも取れず行き詰まる彼らをひとりにしないために、サポートが必要です。

\*1 出典:『令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査』  
\*2 出典:総務省『労働力調査』 \*3 出典:『2019年 国民生活基礎調査』 \*4 出典:『令和2年度学校基本調査(令和2年3月卒業者)』

## D×Pの活動

学校現場(オフライン)とオンラインで10代につながります。



オフライン



### クレッシュェンド

高校生とD×Pのボランティア「コンポーザー」が対話する全4回の授業です。ひとりひとりに寄り添いながら関係性を築き、人と関わってよかったと思える経験をつくれます。

## 出会う・つながる



### 居場所事業

居心地のよい空間を学校のなかにつくり、高校生が定期的にさまざまな人とつながることができる場を提供します。食事や進路を考えるきっかけを提供し、高校生の今と未来の居場所をつくれます。

## 社会とつながる



### 仕事体験ツアー

ひとりひとりの希望や状態に合わせた職場見学や仕事体験です。自分の生き方についての考えや仕事に対する理解を深め、自身が納得のできる進路を選んでゆけることを目的としています。



オンライン



### ユキサキチャット

#### ユキサキチャット

気軽に利用しやすいSNSやアプリケーションを通して、不登校・高校中退などの困難を抱えた10代がいつでも自分の進路や就職に関して相談することができる状態をつくれます。

高卒で就職したほうがいいのか進学するか迷っています。

悩みを教えてください ありがとうございます。

進学できても、ひとり親家庭のため生活費も稼がなきゃいけない...

就職と進学で迷ってるんですね。

バイトしながら、ちゃんと学生生活が送れるかも心配です。どうしたらいいでしょうか。

チャットでのやり取りやオンライン面談などを継続的に行ない関係性をつくれます。

#### ネクストアクション

居場所や専門的な相談先、就職やアルバイト先、ロールモデルとなる人・さまざまな機会などを紹介し、相談者の次の行動につなげていきます。



#### 現金給付・食糧支援

直近の生活を安定させるため、現金や食糧を届けます。ユキサキチャットで継続的に関わりながら公的支援につなぐなど、相談者が他にも頼れる先を増やしていきます。

# Highlights of 2020

2020年度・D×Pの取り組み

## #ひとまずごはん

### 保護者に頼れず生活する若者へ 食糧支援と現金給付

2020年4月。新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発表を受け、ユキサキチャットにも経済的な悩みが届くようになりました。ある相談者は「アルバイトがなくなってしまい、親に頼れないので困っています」とのこと。児童養護施設を退所した若者や保護者に頼れず大学に通う・働いている若者からの相談も増えることが予測されたため、対象年齢を25歳までに引き上げ緊急サポートを開始しました。現在は、食糧支援と必要な場合に月1万円の給付を3ヶ月間行なう現金給付の実施に加え、さらに必要な場合は追加で4万円を給付しています。また「D×Pの届けるごはん」の価値も設定し、D×Pらしい食糧支援のあり方も再設計しました。



## 働く方法を模索したり

### 選択肢を拡げたりするための パソコン寄贈プロジェクト

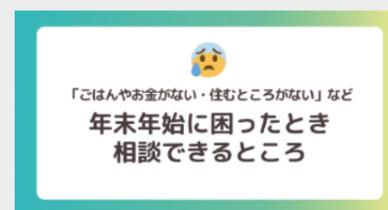
経済困窮家庭の10代や在宅ワークでも働きたいという希望がある10代、収入に不安がある10代にパソコンを無償提供しました。スキルアップの機会提供や在宅ワークの案内により『働く』のサポートを行ないます。また同時に、本人の状況をヒアリングし、D×Pの食糧支援や現金給付の実施、また他に必要なサポートがあればつないでいます。個人や法人の皆様よりパソコンの寄付もいただき、新たな寄付の選択肢が増えました。



## LINE相談事業

### 「ユキサキチャット」の登録者が 約4,000名に

2020年6月、LINE相談ライブラボを「ユキサキチャット」と名称を改めWEBページも作成しました。ユキサキという言葉には従来の進路相談のイメージにとらわれず「進学や就職だけでなく、ひとりひとりのゆく先を一緒に考えます」というメッセージを込めています。WEBページビューは平均月3,000件となり、認知経路もWEB検索が43.3%となりました。



コロナ禍では、情報発信も強化しました。食糧支援やパソコン寄贈と合わせて、他団体など社会資源をまとめました。SNSで拡散され、困っている10代と出会うきっかけ(アウトリーチの機会)にもなっています。

## コロナ禍でも つながりを絶やさない。 学校での取り組み

新型コロナの影響を受け、異例の全国一斉休校となりました。D×Pが関わる定時制高校では、登校が再開になった6月より2校で居場所事業を再開しました。その後、3校でのクレッションドと居場所事業の実施、2校での居場所事業のみを実施することができました。クレッションドの授業数は昨年度の1/3以下になりましたが、コンポーザーとして参加して下さった方は延べ63名・居場所事業に参加して下さった地域の方は延べ76人になりました。コロナ禍でも高校生と多様な大人がつながる場をつくることができました。



通信制・定時制高校のなかにつながる場をつくる

# クレッシェンド



高校生とD×Pのボランティア「コンポーザー」が対話する全4回の授業です。  
ひとりひとりに寄り添いながら関係性を築き、人と関わってよかったと思える経験をつくります。  
「総合的な学習の時間」などの出席に関わる授業の枠組みで行なうことで、サポートを必要とする高校生にも出会いやすくなります。



## コンポーザーとは？

クレッシェンドを一緒につくる大学生・社会人ボランティア。教える立場ではなく、高校生の話を傾け、ひとりひとりの考えを受け入れ学び合う大人です。D×Pが大切にしている姿勢に共感し体現する人が集まっています。

D×Pの大切にしている姿勢

- ・ 否定せず関わる
- ・ ひとりひとりと向き合い、学ぶ

## プログラム例

第1回  
はじめまして、こんにちは



高校生もコンポーザーも「はじめまして」。書いたり、話したりが苦手でも参加しやすいゲームや簡単な自己紹介でお互いのことを知り、一緒に4回の授業を進めてもいいと思える関係性をつくります。

第2回  
人生いろいろあるんです



コンポーザーは、過去の経験や自分の考えなどを通して生徒と対話します。生徒が「こんな生き方もある・こんな考えもある」と知り、「大人の人」から少し身近な「○○さん」だと思える関係性をつくります。

第3回  
いままでとこれから



「今ハマっていること」「過去、悩んだこと」などのテーマに沿ってグループみんなで話します。生徒がグループの人に「自分のことを話してもいいかも」と思える関係性をつくります。

第4回  
みんなでユメブレ



「ちょっとでもやってみようこと(=ユメ)」を考えて、画用紙にクレヨンで表現します。画用紙を見せながら自分の考えを話し、受け入れてもらえる環境とクラスメイトを今までより身近に感じられる関係性をつくります。



1年生  
Aさんの様子

### 「年上が苦手で、目を合わせるのが無理！」

自分の考えや苦手なことも言える関係へ

初回からよく話し、率先して取り組んでいたAさん。その様子にコンポーザーのBさんは、Aさんの本音は見えていないと感じたそうです。2回目は、スマホでゲームをしながらもコンポーザーBさんの話に質問したり意見を言ったりしていました。回を重ねるとAさんは「ひとり暮らしがしたい」「優しい現場の社長になりたい」とやりたいことや自分の考えを話していました。最終回では、コンポーザーのBさんに「年上が苦手で、目を合わせるのが無理!人見知りやねん」と言い、いろんな話ができる関係性になっていました。Eさんが「居場所事業にも参加する」と話すと「まじで!ほんまに!」と嬉しそうな表情でボードゲームをする約束をしていました。



2年生  
Cさんの様子

### 「この髪型を許してくれる職場、どっかない？」

相談したいと思える関係へ

クレッシェンド中に「音楽が好き。これからも続けたい」「この髪型がダメなところは働きたくない」と話していたCさん。Cさんの発言を受けて、コンポーザーのDさんは在宅勤務可能な仕事や働き方、アパレルもいいんじゃない?とさまざまな選択肢を伝えました。話を聞いたCさんは、質問や具体的な希望、苦手なことも話してどんな仕事か合うかを一緒に考えていました。最終回では「この髪型を許してくれる職場で、働く日時も融通が利くところを探してる。学校求人にはなさそうだから、どっかない?紹介してほしい」とコンポーザーのDさんに話していました。スタッフも居場所事業で引き続き関わり、進路に向けたアクションがとれるようにサポートしていきます。

New!

## 学年に合わせたプログラムをスタートしました!

2年生・3年生のクレッシェンドでは、進路や卒業後を考える機会もつくります。卒業後も、ひとりひとりが社会関係資本(つながり)を持てるように体系化しました。

全学年 人と関わってよかったと思える経験をつくる

3年生 卒業後の「働く」に対する不安を軽減する

2年生 進路選択に向けて、自分なりの判断軸を持てる

1年生 いろいろな生き方や考え方を知る

### 2年生のプログラム例 ユキサキマップ

「どんな生き方をしたいか?」をイメージするため、質問シートに沿って考えていきます。希望する条件や本人が意識している長所・短所、周囲の人から見える生徒のよいところ、同じグループのコンポーザーの生き方などさまざまな視点から自分の生き方を考えます。否定せず、一緒にこれからについて考えてくれる人と関わりながら、進路選択のための判断軸をつくることを目的としています。



#### ユキサキマップに取り組んだEさんの様子



##### ①好きなことってどんなこと?

「映画・配信・雑貨・部屋の模様替え」と思いついた順番に記入し、「人と話すことが好きなんやけど、それって好きなことに入るの?」とコンポーザーのFさんに質問していました。Eさんが「入ると思うよ」と答えると、「人と話すこと」とシートに書き込んでいました。

##### ②好きなことを仕事にしたい?

「自分に合っている仕事を見つけた」とNOを選んだEさん。次の項目のどんな仕事を選びたい?と条件について考える項目で悩み、全部消してしまいました。コンポーザーのFさんが声をかけると、「自分の将来の事があまり考えられない。いつもその時その時で決めたりしてきたから、その時に考えたいかと思う」と話していました。

##### ③興味のある仕事って?

コンポーザーのFさんと一緒に興味のある仕事を考えていきました。「製造業。商品の裏側が気になる。つくって人に届くのいいかな。単純作業は得意やと思う」「D×Pのスタッフとかやってみたい。その時の高校生が何を考えてるのかとか、どういう価値観を持っているのかとか、そういうのを知りたい」と話していました。

### 3年生のプログラム例 知って得するおかねの話/理想の暮らし実現シート

コンポーザー自身の体験談として、失業保険や職業訓練給付金など社会制度について話します。また、自分が希望する生活を送るにはいくら必要なか?と一緒に考えます。卒業後に対する不安や悩みを共有し、一緒に考えてくれる人とつながるなかで卒業後の不安が軽減されることを目的としています。



#### 理想の暮らし実現シートに取り組んだGさんの様子



##### ①ひとり暮らしの生活費は?

シートの項目に沿って、住みたい間取りや場所を考え家賃を入れてみます。Gさんは、家賃を大まかに見込み6万と記入し、細かな部分イメージできていなかったことに気づいたようでした。そのほかにも、1食あたりいくらぐらいかかる?お風呂には毎日つかう?スマホは最新がいい?など身近なところを考えながらライフラインにかかるお金がどれぐらいなのかを考えていきました。

##### ②貯金や趣味は?

整備士になりたいというGさん。具体的に「25歳までには資格をとっておきたい」と話していました。何歳でどうしたいかが決まっていたため、車の費用は?試験にかかる費用は?と趣味やキャリアアップなどにかかるお金や貯金についても考えていきました。

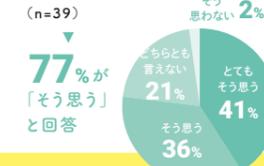
##### ③理想の暮らしはいくら?

シートに記入していった金額を合計して、1ヶ月に必要なお金がいくらになるのかを計算しました。合計金額を見ながら「自分の車にかけられるお金は妥協したくないから、このあたりは削れるかなあ」と話し、コンポーザーやスタッフの生活を参考にしながら無理なく暮らせる金額の相談をしました。クレッシェンドが終わると「これ参考にするわ」と言い、計算したシートをスマホで写真に撮っていました。

### プログラムの成果

#### 2年生の授業後アンケート

「進路を考えるヒントとなる価値観や判断軸が得られましたか?」  
(n=39)



#### 3年生の授業後アンケート

「困ったことがあったとき、だれかに相談してもいいと思えますか?」  
(n=10)



#### 課題とこれから

##### 生徒の“今”に寄り添ったプログラムに

今回、3年生のクレッシェンドを実施したのが11月。就職が決まっているから大丈夫!という生徒と、卒業後より目の前の就職に焦っている生徒に対して、「卒業後の生活の不安」が伝わりづらいということがありました。学校の先生とも実施時期について相談を行ない、どんな状態の生徒にも届けられるように授業進行も見直します。2年、3年のプログラムも生徒にとって参加する意義を感じられるものになるように改善していきます。

学校のなかから、今と未来の居場所をつくる

# 居場所事業



高校生が定期的にさまざまな人とつながることができる場をつくれます。  
スタッフは、日々生まれる会話のなかから困りごとを拾いサポートにつなげます。  
生徒は、会話を楽しんだり、絵を描いたり、端っこの席で仮眠をとっていたりと自由に過ごしています。

## コロナで今年はないようなもんやん

これは、夏休みが終わった頃のある生徒の言葉です。  
遊ぶ機会・楽しむ機会も失われています。

## 人とのつながりも、行事や楽しみも絶やさない！

コンポーザーは延べ**63名**参加。  
「〇〇ちゃんに会いに来てるねん！」  
「今日は、〇〇さんおる？」  
とスタッフだけでなくコンポーザーに会いに来る生徒もいました。  
食事提供者さんなど地域の方も延べ**76名**参加していただき、  
生徒が地域の方と関わる接点をつくることができました。  
季節に合わせた行事やお楽しみ企画も実施しました。

### お楽しみ企画



12月  
クリスマス

登校する生徒に、校門でピンゴカードを配布しました。「なんかあるって聞いた」と言い初めて来室した生徒も、ピンゴに書かれたスタッフにまつわるクイズを通して新しく関わりが生まれました。



1月  
お正月

お年玉袋に入ったお菓子とお手製おみくじをプレゼントしました。「人生で初めてのおみくじ」「おみくじ結ぶの初めて」と話す生徒も。生徒が文化とつながる機会にもなりました。



3月  
卒業式

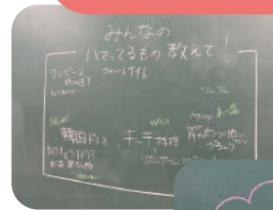
卒業年次の生徒が訪れる最終日には、これまで関わったスタッフからのメッセージで黒板を飾りました。事前に学校で配布してもらったユキサキBOOK(卒業後に困ったときに利用できる社会資源をまとめた冊子)を持ってきた生徒には、ひとりひとりに向けたメッセージを書きました。

配布したユキサキBOOK

特徴  
1 出会う・つながる

学校のなかで、安心できる居心地のよい空間をつくれます。ゲームや本などを置き、自由に過ごすなかでクラスや学年を超えた生徒同士のつながりをつくるきっかけづくりをしています。また、食事やお菓子・ジュースなどの配布は、相談がなくても行けるような場づくりにも一役買っています。

### コミュニケーションのきっかけづくり



黒板やプロジェクターを使って、会話しなくてもコミュニケーションできるきっかけもつくりました。



特徴  
2 自己表現できる

生徒の抱く困りごとや何かやりたいという希望も、生徒本人が発信しない限り、なかなか知ることはできません。スタッフは生徒が安心して発言や行動ができるよう、「否定せず関わる」姿勢を大切にしています。その上で言動の背景に想いを馳せ、生徒が置かれている状態を把握することを心がけています。

### コロナに応じた食事提供



感染症対策を行ないながら、**606食**の食事提供をしています。  
1月の緊急事態宣言時からは、持ち帰りができる食事も配布しています。生徒からは「これで明日の昼めし食べれるわ〜」という声もありました。  
学校の先生からも「食事を必要とする生徒がいるため、ありがたい」という声をいただいています。

スタッフ

最近2年生のAさんが来室していないのですが、学校ではどんな様子ですか？

先生  
友人と喧嘩したようで、最近授業にも出席できていなくて

→ユキサキチャットでつながる

## ユキサキチャット

ユキサキチャットを先生から生徒に案内してもらうことに。生徒とつながることができ、進路について話を聞いています。

スタッフ  
服好きってクレッシェンドで話してたよな。D×Pと仲のよい服屋があるんだけど、仕事体験してみない？

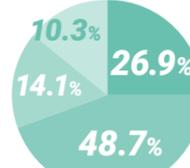
生徒  
興味はあるけど、どんな仕事があるのかも全然わからへん

→仕事体験ツアーへ

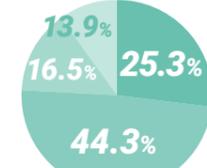
店舗に服が並ぶ前の仕事を体験できる機会として、仕入れた服が集まり店舗に送る作業をしている倉庫へ。値札つけや仕分けなどを体験し、「働いている人の雰囲気良かった」「もともと人と話すのは得意じゃないから店舗で接客したいとかはない。今日の内容は自分に合ってると思う」「他の服屋も見たい」と話していました。

### 居場所事業に関するアンケート

居場所事業がある日は  
楽しみに思える  
(n=78)



居場所事業を通して  
話ができる大人が増えた  
(n=79)



● 当てはまる ● 少し当てはまる ● あまり当てはまらない ● 当てはまらない

特徴  
3 連携・つなぐ

先生やスクールソーシャルワーカーと連携し情報共有をしています。また、生徒が関心のある仕事をする人から話を聞ける企画や仕事体験ツアーへつなぐなど、地域の人や企業とつながる機会を提供します。一部の学校では、学校周辺の地域で活動する他団体と運営し、頼れる大人との関係性をつくるサポートをしています。

### これからの居場所

#### さまざまな機会や情報を得られる環境づくり

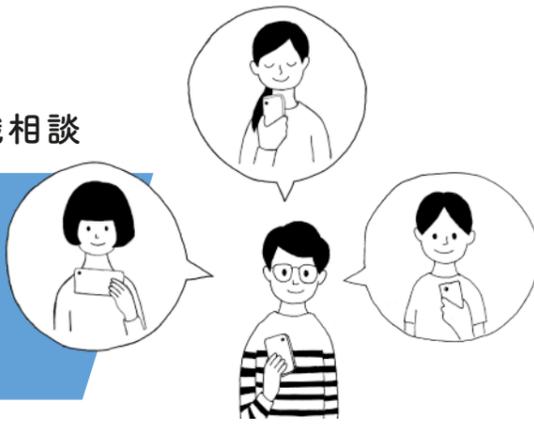
楽しみを提供する季節のイベントに加えて、イラストを描いてオリジナルグッズをつくるなどの趣味や興味を切り口に仕事について考えるきっかけをつくる提案や学校の就職指導と連動した企画を考えています。居場所事業を行なう教室の一角には、進路や仕事に関する話をしやすいブースを設置し、生徒のニーズに応じて必要な情報をその場で届けられるようにしていきます。

#### オンライン事業(ユキサキチャット)との連携

今年度は、不登校状態の生徒に先生からユキサキチャットを案内していただくことができました。今後もオフラインとオンラインの両方で生徒をサポートできるように、D×P事業内での連携を増やしていきます。また、生徒が卒業を迎えるときにユキサキチャットを友だち登録してもらい、卒業後に困った時にも相談できるつながりを持つ仕組みをつくれます。

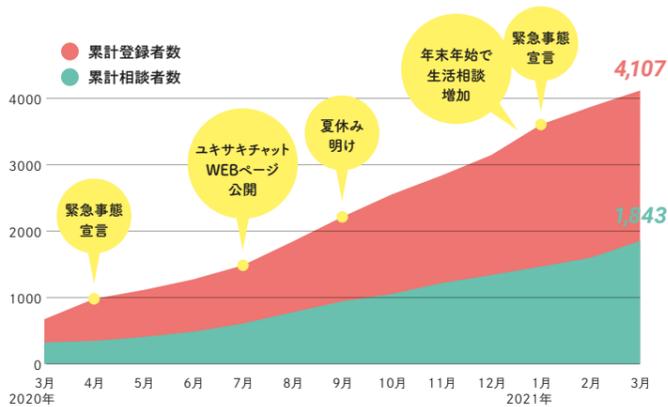
## 不登校・中退など、いろいろある10代の進路・就職相談

# ユキサキチャット



気軽に利用しやすいSNSを通して、不登校・高校中退などの困難を抱えた10代がいつでも自分の進路や就職に関して相談することができる状態をつくれます。

ユキサキチャット登録者数と相談者数(累計)

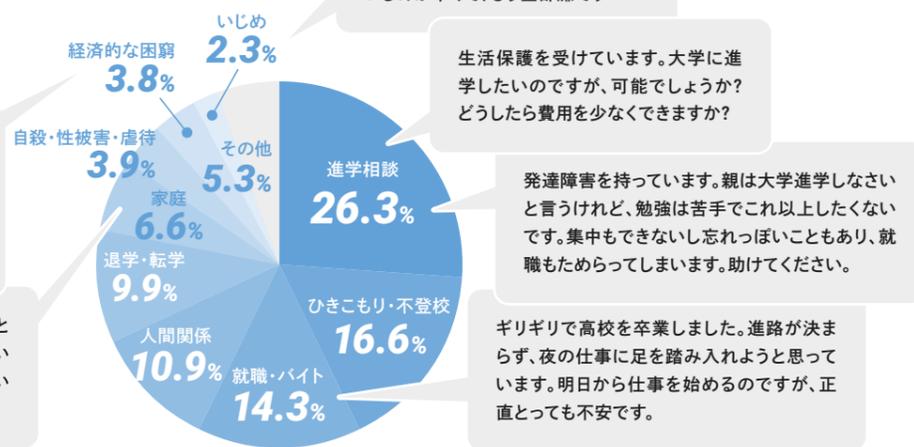


### 相談種別

さまざまな事情や背景によって悩みごとが折り重なり、困難な状況となっています。

親の障害年金と私のアルバイト代を合わせて生活費と学費に充てていたのですが、コロナの影響でアルバイト先が潰れて他のアルバイトを探しているが見つからず…。少しでもサポートしていただけないでしょうか。

通信制高校にアルバイトをしながら通うことを考えたのですが、家族から反対されて言い合いになってしまいます。家族との関係について悩んでいます。



学校を辞めたくても辞められません。いじめが辛くて、もう全部嫌です

生活保護を受けています。大学に進学したいのですが、可能でしょうか？ どうしたら費用を少なくできますか？

発達障害を持っています。親は大学進学しなさいと言うけれど、勉強は苦手です。集中もできないし忘れっぽいこともあり、就職もためらってしまいます。助けてください。

ギリギリで高校を卒業しました。進路が決まらず、夜の仕事を足踏み入れようと思っています。明日から仕事を始めるのですが、正直とも不安です。

## サポートの流れ

1ヶ月～2年のスパンでつながりをつくれます。

### 1 ユキサキチャットの認知

相談者がユキサキチャットを友だち登録します。認知経路は、検索/Yay!(イェイ:コミュニケーションアプリ)/Twitter/知人からの紹介などです。登録すると自動メッセージが相談者に届きます。

### 2 土台となる関係性の構築

相談者の疑問や課題に応えながら、情報提供を行います。相談内容や相談者の状況に合わせて相談員も経験を開示するなど、相談員の人となりが見える対応をしています。質問の意図を伝えながら状況を整理していきます。

### 3 ネクストアクション・関係性の維持

ネクストアクション(相談者が次に取る行動)を提案します。問題解決を急がず、相談者が自分で動けるタイミングまで待つことも大切にしています。関係性を維持する場合は、定期的に相談員から声かけや情報提供を行なっています。

## ネクストアクション

相談者本人が課題解決のための行動へと進めるようにさまざまな情報を提供しました。

### 相談員からの提案数

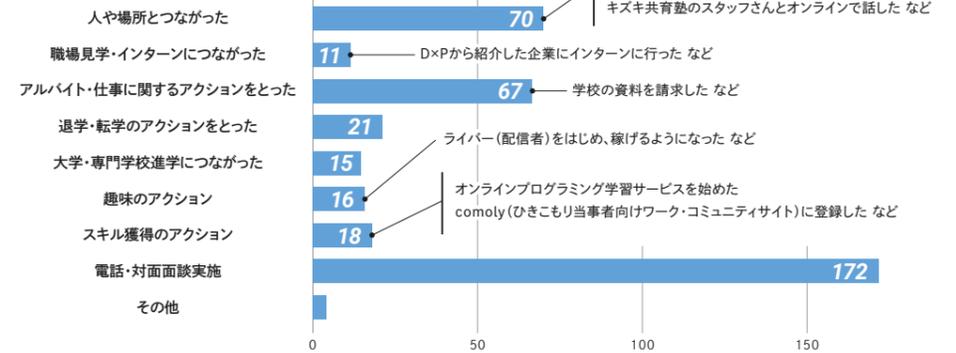
915回

### 相談者の実行数

383回

実行には、提案を受けて相談者が実行した数と、相談者が自ら実行した数を含みます。

### ネクストアクション実行数の内訳



## ケース紹介



Aさん (10代後半)

### さまざまなNPOや行政機関、企業との連携をしてサポート

家庭問題を抱え、児童相談所と他のNPOから支援を受けていました。仕事やお金、住む場所などに困っている状況で他のNPOから紹介を受け、ユキサキチャットにつながりました。相談を受けて、まずは生活費や就活のための交通費を現金給付でサポートしました。さらに寮付き求人紹介サービスを紹介します、就職と住居が決まりました。

環境の変化もあり仕事が続けられず、住居と仕事の両方を失うことになりました。いくつかの安価に住めるシェアハウスやシェルターを紹介し、住む場所を探しました。現在は自立支援を行なうNPOが運営するシェアハウスに入ることができました。

相談者が18歳になることから、生活保護を受給して生活を安定させることを目指すように本人と児童相談所とやりとりをしています。しかし、18歳になると同時に児童相談所からのサポートが受けられなくなってしまうため、生活支援の団体ともつながるか、仕事を探していく必要があります。



Bさん (20代前半)

### 現金給付の相談から、スマートフォンの手配・生活保護申請のサポート

「お金に困っている。親が借金だらけ。就職したいが採用されない。」と相談がありました。コロナの影響で収入が途絶え、家庭の経済状況も厳しく頼れない状況でした。コロナ前に離職してからは電話が使えず、コンビニのWi-Fiにつないでユキサキチャットへ連絡していました。

現金給付で就職活動に必要な交通費のサポート、東京アンブレラ基金の支援を利用して無料でスマートフォンを手配しました。その後は、連絡頻度も増えBさん自身で仕事を探せるようになりました。また、就職活動も電話番号がないことで面接につながりづらかったのですが、面接にも進めるようになりました。

寮付きの会社に採用が決まり働き出しましたが、体力的に厳しく1ヶ月ほどで退職することになりました。退職後、寮を出ることになったため、生活保護を申請してまずは生活を安定させることを提案しました。自分の状況を伝えることが難しい事情があったため、本人が申請に行く前に福祉課の担当者に情報共有し、すぐ住居確保に動いてもらえるよう働きかけました。現在は生活保護を受けることができています。



Cさん (18歳・通信制高校を進路未決定で卒業)

### 「働けるなら働いて自立したいです」という相談から、関係性を継続

「自殺願望が消えません。本当は生きたいのですが、体調の不安があり学校にも行けなくなったのに、普通の職場で働ける気が全くなし」と相談がありました。関係性の構築のため、お互いが見た映画の話や、家での過ごし方の話をするなど、雑談を交えてやりとりを続けました。

在宅で働ける可能性としてWEBデザイナーを提案し、N予備校でのプログラミング講座の受講やオンラインプログラミング学習サービス「Progate」を始めることになりました。継続し学習に取り組みHTMLやCSSのカリキュラムを修了。NPO法人CLACKが主催するプログラミング学習のイベントを提案し参加しました。

体調が悪くなる度に希死念慮が強まると連絡があり、精神科の受診を促したところ、状態が安定してきました。相談者本人が「条件次第では外でも働けるのでは?」と感じたそう、アルバイトと一緒に探しました。相談者が自ら調べて複数応募し、飲食のバイトをスタート。8ヶ月継続して働きました。自立したいという思いがあるので安定して収入が得られる仕事に就けるようにサポートし、今後も生活のことを一緒に考えていきます。

### アウトリーチの拡大

生活への不安が大きく余裕のない10代が、自力で情報を得ることは難しいことです。相談に至るときには、経済状況も心身の状況もギリギリ…ということも少なくありません。早い段階で認知してもらえるように状況に寄り添った情報発信の強化に加え、自治体の支援員・学校の先生・ソーシャルワーカーなどから、ユキサキチャットを紹介していただけるようなアウトリーチの機会も模索します。

### 相談員の心理的ケア

ユキサキチャットに寄せられる相談内容がより複雑になった1年でした。緊急対応や幅広い専門知識が求められる相談も増えたため、相談員の心理的負担が懸念されます。相談員を増やしひとり当たりの相談件数を減らすとともに、外部アドバイザーから対応方針のアドバイスを受けられる体制の拡充、相談員のケア体制が急務となっています。



# 食糧支援・現金給付 プロジェクト

一時的に安心できる環境を整えるために食糧支援や現金給付を行ないます。  
ユキサキチャットでの継続したサポートで就職や他の支援機関などにつながり、  
相談者が頼れる先を増やしていきます。

#ひまわりごはん



## D×Pの食糧支援



**1** すぐに送る、  
長期的につながる

温めるだけで食べられるレトルト食品や、1日に必要な栄養素を補う完全栄養食など。手軽さと栄養を考慮し、ひとりひとりの事情に合わせた食糧を30食分、すぐに送ります。その後3ヶ月～半年ほど長期的に関わり、生活の安定に向けた次のステップと一緒に考えます。

**2** ひとりひとりが  
受け取りやすい

「ユキサキ便」と名付けた箱で送ります。食糧支援を受けることは、相談者が自分のユキサキに向かうこと。後ろめたく思わずに、受け取って欲しいと思っています。食糧の他にも必要なものがないかを選択式のアンケートで聞き、マスクや生理用品・シャンプー・歯ブラシなどの日用品も届けています。

**3** 人とのつながりや  
文化的経験を  
得られる工夫

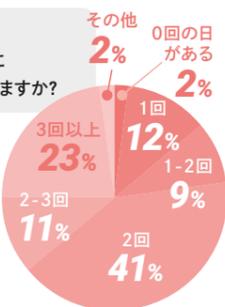
ひとりひとりへの手紙を同封し、人とのつながりを感じられる体験をつくります。また、余裕のない生活をしていると文化的経験が得づることがあります。季節を感じられる食べ物や美術作品の印刷されたメッセージカードを同封するなど、文化に触れられる機会もつくります。

## サポートの流れ

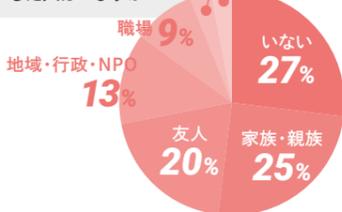
- **ユキサキチャットに登録**  
初回の自動メッセージで「食糧支援・現金給付の問い合わせ」を選ぶと、相談員からヒアリングフォームが届きます。
- **相談員とオンライン面談**  
ヒアリングフォームの内容をもとに、オンライン面談を実施し相談者の詳しい状況を聞きます。
- **福祉制度・公的補助の案内**  
福祉制度や公的補助の対象となる場合は、制度の案内を行ない利用できるようにサポートします。制度につながるまでの生活が不安な場合は食糧支援や現金給付を行ないます。
- **食糧支援・現金給付**  
状況によって食糧支援と現金給付のどちらか、あるいは両方を行ない生活をサポートします。まずは直近の生活に対して安心できる環境をつくります。
- **進路・就職など今後の生活の安定をサポート**  
就職・転職など収入を得るためのサポートや生活を安定させるためのさまざまな情報提供を行ないます。

## 食糧支援・現金給付を希望する人へのヒアリングの結果 (n=116)

ふだん、  
だいたい1日に  
何回食べていますか？



あなたの生活や食事、  
収入について、相談  
した人はいますか？



## 相談者の状況



相談者 Dさん

幼いころから虐待を受けていたこともあり家を離れることを希望しています。ひとり暮らしをする資金を貯めるため、数年間の引きこもり状態を経てアルバイトを始めたそうです。新型コロナウイルスにより収入が減ったことに加え、体調面の不安から働き続けることに限界を感じているという相談がありました。現金給付をきっかけにやりとりを始め、障害者手帳の取得を行ない就労に向けて動き出しています。



相談者 Eさん

「NPO法人などは正直信用してないし馬鹿らしいと思っています。ですが本当に苦しいため相談させていただきました」とメッセージが届きました。高校に通いながらひとり暮らしをしているEさんは、アルバイトの収入で生活費を賄っています。収入が減り食費を削っている状況でした。現金給付・食糧支援を届けると、自身でアルバイトを見つけリーダーにもなりました。2回目の緊急事態宣言後にもシフトが減ったため、安定して働けそうな条件を考え仕事を探しました。新しいアルバイトが決まり生活が安定してきています。

## 食糧支援・現金給付の支援基準

- 保護者など経済的頼り先があるか
- 貯金や借金があるか本人の経済状況はどうか
- 仕事をしているか、働ける状態にあるか収入見込みがあるか
- 公的なサポートを既に受けているか、今後受けられそうか

などを総合的に判断し、より逼迫した状況にある方に対して給付等を決定しています。給付の目的は、生活費、家賃、学費の支払いや、ライフラインの滞納の解消などの支払いに充てることです。支援を決定する場合も見送る場合も、支出の見直しや収入確保のため転職・アルバイト探し、利用できる公的支援、奨学金の申請などをサポートしています。

## Prospects

# 2021年度のD×P

**1** コロナの影響の長期化を踏まえ、  
現金給付を拡大



幾度もの緊急事態宣言も相まり、経済的困難を抱える若年層への影響が長期化しています。2020年度は緊急支援として食糧支援や現金給付を実施してきました。状況がすぐに改善することは難しいと予測されるため、引き続き緊急支援を続け、拡大します。特に保護者に頼ることができない10代は深刻な状況です。本来、保護者から提供されるはずの基本的な経済援助を少しでも行ない、相談者自身が安心できる環境をつくっていただけるようサポートを行ないます。

**2** 困りごとを抱えた10代と、  
さらに出会っていくために



10代が、自力でサポートの情報を見つけることは難しいです。また、客観的に自身の困りごとを捉え「頼ろう」とすることも難しいことです。困りごとを抱えた10代にD×Pが出会う施策として、SNSでの発信強化・広告出稿を行ないます。また、身近な10代に紹介していただけるように寄付者・コンポーザーに「ユキサキチャットカード」の配布も予定しています。インターネット上と人とのつながりによってセーフティネットを拡げていきます。



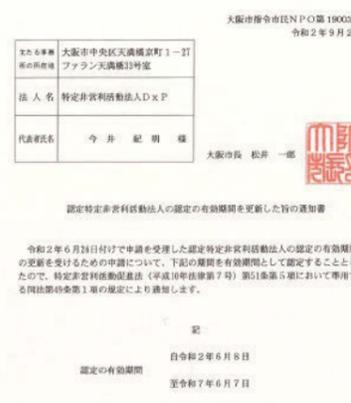
理事長：今井より

2020年はコロナ禍となり、どなたにとっても影響を与えた1年でした。D×Pにとっては、生活に打撃を受けた若年層に会い続けた年でした。2020年度のユキサキチャットの登録者数は2019年度末と比較して約5.7倍となり、これほどニーズがあることに驚きました。2020年5月、10代の声から必要性を痛感し食糧支援や現金給付をスタートさせました。D×P自体も財政的に余裕がないなか見切り発車の状況でしたが、このプロジェクトに同じく必要性を感じ寄付で後押しして下さった方が大勢いたことは心強い支えになりました。日本ではオンラインで相談できる窓口が限られており、また相談内容によって窓口が分かれているなど、10代が辿り着きづらい構造になっています。未成年の場合、政府からの世帯単位の給付金は世帯主が受け取ることで支援が届かないことがあります。子どもたちの口座に直接現金給付ができたことは大きなことだったと思います。コロナ禍の影響は長期化すると考えています。2021年度は困難な状況にある10代を長期に渡って支え、生活の安定をサポートする仕組みをつくりたいです。

# 3

## 組織基盤を強化

2020年度は認定NPO法人格の更新を行ない、労務面の整備、経営企画会議の体制を刷新しました。2021年度は引き続き、労務/法務面の整備・個人情報保護体制・財務管理体制を強化していきます。また、2020年度は新型コロナウイルスによる働き方の変化などストレスが生じやすい一年でした。ストレスチェックや研修を行なうなど、ひとりひとりが安心して力を発揮できる体制をつくりたいです。2021年度は新規の職員採用も強化します。



# たくさんの方に支えていただきました。(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

D×Pが、経済的にしんどさを抱えた高校生が集まる公立高校で事業を実施でき、ユキサキチャットでの相談や緊急支援にも取り組めるのは、ご寄付・ご助成いただいている方のおかげです。一部となりますが、サポーターの皆様をご紹介します。

 <p>株式会社メルカリ</p>	 <p>大和証券グループ本社 Daiva Securities Group Inc.</p>	<p>大塚雄三様</p>	 <p>J-Coin 基金</p>
 <p>認定NPO法人テラルネッサンス</p>	<p>ゴールドマン・サックス 緊急子ども支援基金</p>	<p>コロナ寄付 プロジェクト</p>	<p>藤野英人様</p>
<p>畑中洋亮様</p>	 <p>株式会社BJefホールディングス</p>	<p>野中久彰様</p>	<p>合同会社 日本の田舎は資本主義の フロンティアだ</p>
<p>堤真一様</p>	 <p>積水ハウスマッチングプログラムの会</p>	<p>公認会計士 渡邊淳事務所</p>	<p>Growth Capital グロース・キャピタル株式会社</p>
 <p>株式会社リツアンSTC</p>	<p>山本由紀様</p>	<p>寺田英司様</p>	 <p>村上財団 The Murakami Family Foundation 一般財団法人村上財団</p>
<p>武田富美子様</p>	<p>一般社団法人 あおい福祉AI研究所</p>	 <p>医療法人社団茨賢会 IBAJINKAI</p>	 <p>花王ハートポケット倶楽部 花王ハートポケット倶楽部/花王株式会社</p>
 <p>KonMari Media Japan株式会社</p>	 <p>合同衛生株式会社</p>	 <p>株式会社Creative Capitalism Japan</p>	 <p>私と地域と世界のファンド #みんなおんなじ空の下</p>

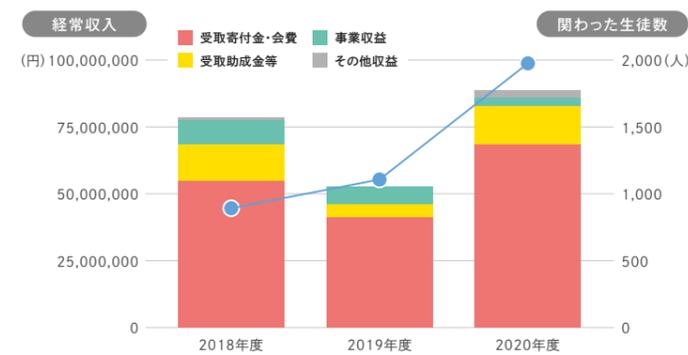
# 2020年度 活動計算書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

科目	金額(単位:円)	
	前期(2019年度)	今期(2020年度)
経常収益		
受取会費	55,000	60,000
受取寄附金	41,396,172	68,532,068
受取助成金等	4,769,670	14,660,279
事業収益	6,499,579	2,784,281
その他収益	4,144	2,472,295
経常収益合計	52,724,565	88,508,923
経常費用		
(1)事業費		
人件費	31,840,282	38,132,218
福利厚生費	461,747	202,475
旅費交通費	8,563,833	1,133,151
消耗品・備品費	938,489	880,837
賃借料	1,677,242	1,814,403
通信費	582,944	1,352,248
印刷製本費	243,770	574,020
減価償却費	156,236	891,161
業務委託料	2,604,160	6,429,207
広告宣伝費	33,000	183,920
支払手数料	2,002,336	2,923,829
給付支援費	0	4,531,293
その他	2,450,411	1,163,070
事業費合計	51,554,450	60,211,832
(2)管理費		
人件費	9,761,796	8,537,642
その他	7,887,603	6,671,741
管理費合計	17,649,399	15,209,383
経常費用合計	69,203,849	75,421,215
当期経常増減額	-16,479,284	13,087,708
経常外収益	0	0
経常外費用	0	0
税引前当期正味財産増減額	-16,479,284	13,087,708
法人税、住民税及び事業税	70,836	70,689
当期正味財産増減額	-16,550,120	13,017,019
前期繰越正味財産額	14,782,890	-1,900,984
指定正味財産増減額	-133,754	0
一般正味財産増減額	0	0
次期繰越正味財産額	-1,900,984	11,116,035

※ 今年度はその他の事業を実施していません。

## 経常収入内訳 3期比較 / 関わった生徒数



※ 紙面の都合上掲載できませんでしたが、すべての勘定科目別に表記されている活動計算書(P/L)、貸借対照表、財産目録、そして監査報告書はD×PのWebサイトに開示しております。合わせてご覧くださいませ。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、認定特定非営利活動法人D×Pの収支を正しく示していることを認めます。

監事 毛受芳高 (一般社団法人アスパシ)  
会計監査 公認会計士 大磯様 (株式会社わかば経営会計)

**受取寄附金**  
昨年度より約2713万円の増収となっています。受取寄附金のうち約2,590万円が毎月の定期的なご寄付です。月額寄付サポーターは719名→1,402名(約2倍)となり、昨年度の伸び率1.5倍を大幅に超え、多くの皆様に支えていただきました。

**受取助成金等**  
大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金様、ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金様、コロナ寄付プロジェクト様、積水ハウスマッチングプログラム様、J-coin基金様、丸紅基金様、阪急阪神 未来のゆめ・まち基金様、若者おうえん基金様、私と地域と世界のファンド様、日本未来創造公益資本財団様、認定NPO法人フローレンス様からの助成金が含まれています。またp15掲載の助成財団様からの助成金は2020年度の活動に充てられておりますが、一部前受金扱いとなり2021年度分として計上されるものがあります。

**事業収益**  
講演機会が減り講演収入が減ったことや通信制高校や地方におけるクレッショントが開催されなかったことなど、対面で行なう取り組みの売上が減ったため事業収益が371万円減少しています。

**その他収益**  
経済産業省の持続化給付金や日本政策金融公庫の利子補給、印紙税還付などその他が含まれています。

**人件費**  
皆様からいただくご寄付の多くが、人件費・法定福利費に充てられています。10代の多様なニーズに応えるため職員には幅広い専門性が求められるほか、少ない人数のためさまざまな業務をひとり担っています。しかし、目標としている大阪府の平均給与のレベルには達しておらず、職員の待遇は経営課題です。エッセンシャルワーカーたるNPOの職員が継続的に働けるよう、待遇改善を進めます。

**旅費交通費**  
昨年度より743万円減少しています。遠方の定時制高校での授業が見送られたことや、コロナ禍により10代向けの海外スタディツアーが実施できなかったためです。職員が在宅勤務となり出勤頻度が減ったことも理由です。

**通信費**  
食糧支援を開始し発送物が増えたことや、オンライン事業の相談員の増員にともないWi-Fi代・携帯電話代などが増えました。昨年度より76万円増加しています。

**業務委託料**  
オンライン事業の相談員の一部は、業務委託契約で相談対応を担っています。ユキサキチャットへの相談者数が激増したため、相談員の増員分委託費が増えています。また、ともに事業を担うNPO等協業先団体への委託費も増えています。

**支払手数料**  
ユキサキチャットのシステム利用料や、寄付受け取りのためのシステム利用料が含まれています。Web会議の利用料など、在宅勤務を円滑にするための各種サービスも利用しています。

**給付支援費**  
2020年度からの新たな勘定科目です。10代・20代前半に届けた食糧の購入費や給付した現金がこちらにあたります。

**人件費(管理費)**  
経理・総務・労務・法務等を担当する管理部門のスタッフは1名、その他事業部門のスタッフが管理部門の業務も兼ねて担っています。

**その他(管理費)**  
うち業務委託料2,090,533円、支払手数料1,110,916円、消耗品・備品費568,215円、賃借料583,615円などが主な支出です。支払手数料には、顧問弁護士・顧問社労士・公認会計士等専門家への報酬が含まれており、専門家のアドバイスをいただきながら組織運営を行っています。

**経常費用合計**  
D×Pでは生徒や相談者からお金はいただいておらず、無料でサービスが受けられるようにしています。よって、相談者や受給者が大幅に増えると経常費用が大きくなりますが、経常収入が比例して上がることはありません。単発での寄付が打ち切りになる可能性なども踏まえ、次年度予算は引き続き慎重に設定しています。一方、月額寄付サポーターによる定期的な寄付は、迅速に支援を行ない、必要な支出を行うための大きな支えとなっています。

**次期繰越正味財産額**  
昨年度の赤字が解消され、約1,116万円を次年度に向けた資金として繰り越しました。この資金は2021年度のさらなる支援や人的投資に充てていきます。幾度もの緊急事態宣言も相まって、若年層への影響が長期化・深刻化しています。そのため、2021年度は現金給付や食糧支援を引き続き拡大する見込みです。また急速に相談者数が増えるなかスタッフ数が不足しているため、職員採用を強化します。安定的な経営を行うための先行投資ができるよう、さらに正味財産を増やす必要があります。

## 月額寄付サポーター

# 1,402名

#ひとまずごはんのプロジェクトでは、新しく267名の方が月額寄付サポーターになってくださり、個人の月額寄付サポーターは1,363名、法人は39件とたくさんの方に支えていただきました。単発では528名の方にご寄付をいただきました。「一人でも多くの子ども達に、応援している人がいることを知って欲しい」「若いうちは周りにもっと助けを求めていんだよ!」という思いも込めて、「コロナ禍で苦しい状況にある若者を見て見ぬふりは出来ません」とご寄付とともにメッセージも寄せていただいています。

## 寄付者の声

自分自身が高校生時代に中退しようと考えていました。幸いギリギリ不登校にもならず、出席も足りたので留年もせず卒業できましたが、あの時少し選択を別のものにしてたら今のように生きていなかったかもしれないと思っています。苦悩は相対的ではなく絶対的なものだと思います。世界の全てが絶望できていると思う時もあると思います。それでも、それだけが全てではないと気付けるきっかけをあげられたら...と過去の自分を振り返って思うのです。本当に微力ですが、そのきっかけに貢献できればと思い寄付を決めました。

ニックネーム  
OKBさん

大人であっても貧困というのは辛いと思いますが社会に出たことのない未成年や若年層の方々は大変だと思います。D×Pの方々の現場でのご活動についてYouTubeやFacebookなどを通じてお話を伺えるのでサポートさせていただくモチベーションになりました。特にLINEでの高校生本人からの実際のメッセージや具体的な事例からは深刻さが伝わってきましたがそういう情報をキャッチできるのもD×Pの方々が高校生に寄り添ってサポートされているからこそだと感じました。社会の「穴」とも感じる未成年の貧困に向き合って取り組まれている団体があることは心強いです。

林田修一さん  
世界銀行グループMIGA 駐日代表